

サポ通

さばえNPOサポート通信

Vol.11 発行日■2010年10月30日
発行■(特)さばえNPOサポート
編集■広報サポート事務局

サポ通は、(特)さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です

まちづくり系学生の現場は『刺激』と『気づき』がてんこ盛り!!

～金沢大学
「まちづくりインターンシップ報告会」
参加レポート～



▲報告会の会場となった「キヨ山ふれあいの里研修館」。金沢市郊外の山あいにある、自然に囲まれた研修施設。

金沢大学 人間社会学域 地域創造学類 地域プランニングコースの2年生5人が必修科目「まちづくりインターンシップ」で、8月23日～9月3日の12日間、鯖江市に滞在。地域課題などを調査した上で、課題解決策を活性化案にまとめました。

同コースは創設3年目。NPOや行政、民間企業など各領域でコーディネーターとして活躍できる人材育成を目指しています。

まちづくりインターンシップは学生が行政やNPOの活動の一員として参加しながら、地域が直面している課題を認識し、それを解決する能力を養う実践の場として本年度開講しました。学生たちの受け入れ先は鯖江市以外にも、長野県木島平村や滋賀県愛荘町、石川県金沢市・加賀市・七尾市・内灘町、富山県黒部市と多岐にわたります。

金沢市は鯖江市から高速でも約1時間半と比較的近く、隣県の大学のユニークな取り組みとして関心もあり、広報サポート委員会では「学習サロン」の一環として、同コースの視察を兼ねて9月25日に2年生のインターンシップ成果発表会を聴講してきました。

特筆すべきは、学生たちの発表内容もさることながら、その後の質疑応答にあります。

我が(?)鯖江滞在チームの▶皆さん。



◀学生からも評価者からも、含蕃のある「愛のツッコミ」がピシバシ飛び交う。

学生たちの提案に対し「それは誰に対する提言か?」「自分たちで『良い』と思う提案を見つけると、それに合うように結論をまとめてしまいがちになる。一種の証明の逆パターンだが、こうした思考には注意が必要だ」「目的実現のためにエネルギーを向けるべきで、イベント持続のためにエネルギーを向けすぎているか?」「その提案が街にどれだけの効果があるのか?それでも『やる価値がある』ということをどう伝えるのか?」「(行政の)助成金目当てに商売する人なんていない。自分が当事者だったらどうするか?という目線を持って欲しい」など…。

こうした指摘の一つ一つが聴衆の私たち自身にも鋭く突き刺さり、新鮮な感覚で内省を呼び起こしました。

私たちNPOにとっても、学生たちに向けられた問いは重要な意味を含んでいます。自分たちの実践を自讀し、納得してしまうのではなく、自分たちの事業が地域にどのような影響を与えているのか? 学生たちだけでなく、私たちも学ぶ必要があるのではないのでしょうか。

アイデアを具体的な形にして動かそうとするときに生まれる自分たちの「やりたいこと」と地域との矛盾。そこに、地域におけるコーディネーターの非常に大きな役割が求められます。中間支援NPOとして、そのような引き出しを多く持たなければならない。例えば私たちのNPOが、学生たちの実習の受け皿となるような場合、教育的視点で働きかけることのできる力量を備えなければなりません。

その意味で今、NPOサポートは転換期に差し掛かっていることを、私たちは課題として共有すべきではないのでしょうか。